

# 寺報

## 初産式のご案内

平成二十八年八月  
第七十四号  
正念寺護持会発行  
常陸太田市久米町二十一  
電話 〇二九四一七六一二〇五八  
FAX 〇二九四一七六一〇一六九

赤ちゃんが生まれて、初めてお寺にお参りする儀式を『初産式』と言います。この辺りでは、神社にお参りするお宮参りが一般的ではありますが、新しい『いのち』の誕生を是非如来様にご報告する『初産式』をしてみませんか。

皆さんは、子供さんが生まれて、幸せに育って欲しいと願われていることと思います。でも、自分の人生を振り返ってみると、決して順風万般では無かったはずですよ。つらい時・苦しい時だったことでしょうか。決して自分の思い通りにならなかったのが私の『人生』ではなかったでしょうか。

仏教の教えでは、『四苦八苦の人生』とそこをしつかりと押さえて下さっております。そしてその四苦八苦の人生を乗り越える道を示して下さいます。苦しい時・自分の思い通りにならない時、しつかりとそこを乗り越えることの出来る子供に育って欲しいと願うことはありませんか。

私が子供だった頃、悪さをした



原 紅音(あかね)ちゃん9ヶ月

時などよく「誰も見ていないと思って、仏様は見えてらっしゃるよ」と言われたものです。今振り返ってみると、そんな言葉が「自分は決して一人だけで生きているのでは無い、いつも見ている・関わっている人がいるぞ」と教えてくれ、また「おかげさま」という思いを育てて下さったのではないかと思えます。優しいだけで無く、厳しく、でも暖かい、そんな目であなたを見守っている存在があるのだよ、と伝えることも大切な事です。

新しい『いのち』の誕生は、とても有り難いことです。『有り難い』つまり言葉の意味を考えれば、『いのちが生まれることは、とてつもなく難しい』という事です。子供さんの、そして同時に親御さんのこれからの人生、たとえどんなことに会っても、その時に『いのち恵まれて良かった』と言える親子であれば、それもまた『有り難い』事です。

有り難い『いのち』の誕生を、親子・家族そろっての最初の仏縁『初産式』で如来様にご報告することから始めてみませんか。またそれは親にとっても、親としての出発点であり、子供さんから戴いた大事な仏縁であります。恵まれた新しい『いのち』を阿弥陀様の御前で、ご家族・ご縁ある人々、皆そろってお祝い致します。



大友 才生(さく)ちゃん7ヶ月

## 前住職葬儀報告

前住職の葬儀に際しましては、門徒葬という形をとらせて戴いた関係上、ご門徒の皆さまには多大なご協力を仰がせて戴き、誠にありがとうございました。

門徒葬ですので、本来であれば寄付を仰ぐわけですが、震災の傷もまだ癒えていない状態でも有り、まもなく伝灯奉告法要が始まり、皆さまにはいろいろとご協力を仰がなければ

ならないことでもありますので、何とか寄付という形をとらずに済ますこととしました。お陰さまで、四月七・八日の仮通夜・密葬、また二十七・二十八日の通夜・本葬と滞りなく済ますことが出来ました。これも各日にご協力を戴きました総代様を始め、聞法会の会員の方々、またご門徒各位のご協力の賜と有り難く存じております。



前住職は、大正十二年生まれですので、

満年齢で言えば九十二歳になるわけですが、その間には太平洋戦争があり、また若くして父を亡くし、兄弟も三人亡くしていることもあり、その生涯の前半は、大変苦しい人生であったろうと推察致します。現在住職を拝命させて戴いている私が生まれましたのが昭和三十一年ですので、これから戦後復興に向かうという辺りの時期です。ですから、寺の生



活はまだまだ苦しいものであったと思われます。その様な中に有りながら、私も兄弟三人を育て上げ、更には本堂建築から始まり、庫裏・書院・鐘樓の建設と、寺の形を整えあげたことは、本当に頭の下がる思いです。

平成六年に登記上の住職は変わりましたが、その後も鐘樓の完成までは実質的に住職を務め、その完成法要並び

に蓮如上人五百回忌慶讃法要を境に実質的に住職も変わるこ



ととなりましたが、まだまだ元気でありましたので、聞法会や寺院巡りの主催などは、そのまま続けてやって戴いておりました。またご門徒のご法事にもよく行ってくれておりました。二十年近く前からは、私が茨城東組の役員などにも関わるようになってきましたし、四年前からは茨城東組の組長そちようを拝命したこと

もあって、高齢にむち打って、ご法事・お葬儀などをして戴く事も多々ありました。そういう事では、最後まで精力的に法務を全うされた前住職でありました。

そんな前住職でありましたが、四月三日に会津の温泉に行き、次の日の朝温泉に入ってくると出て行ったまま、今生の縁尽き午前九時三十七分に病院にて死亡確認され、お浄土かえに還られたことです。

合掌





## 生活の中の仏教語

あなたにとつて「幸福」とは何ですか？と聞かれたら、皆さまはどう答えますか？「世の中が平和で、家庭が平穏で…」と答える方もいらっしゃるでしょう。「孫の顔見ている時が一番幸福だ」と答える方もいるでしょう。

幸福を辞書で引くと、「心が満ち足りていること」「幸せ」などと書かれています。いづれにしても、満足するというような意味ですね。

ところで、この「幸福」という言葉、仏教語を由来としているって知っていましたか？「福」という文字は、サンスクリット語の「punya(プニヤ)」の漢訳で、「功德」

「善業」とも訳される仏教語です。そして「punya」の元々の意味は、「人間として価値ある行為」という事なのです。決して「満足する」というような意味ではありませんでした。そして「幸」という文字は、「こいねがう」とも意味しますので、「幸福」とは「人間として価値ある行為を追い求める」と言う意味になります。決して「満足を得た状態」という事では無かったのです。

仏教では、満足を得たその瞬間に新しい欲望が更に生まれると言います。つまり、決して本当に満足する時が来ないのです。そう考えると、「幸福」＝「満足」と考えると、その時は決してやってこないのですね。

私たちは、「願い」があるからこそ、しっかりと生きて行くことが出来ます。人間として、価値ある行為を追い求めて生きて行く中に「幸福」があると言うことでは無いでしょうか。



## ご門徒さん紹介

今回は、大里町に住むキルト作家の佐藤のり子さんを紹介させていただきます。佐藤さんは、江戸後期から戦前の古布を使って制作しており、布のままでは捨てられてしまうような物も作品にすることによってそこに新たな価値を産み、素晴らしいものに変化すると言います。



創造展受賞作品「里山」



日本キルト大賞受賞作品  
「向日葵の花」



鶴



石路

## 感謝録

「ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。」

一、永代経として

金 七拾万円

寺門 弘子様

一、永代経として

金 貳拾万円

大曾根邦彦様

一、夫の永代経として

金 壹拾万円

安 美和様

前住職の葬儀に際し、「片岡 満様」より餅米の寄進がございましたことも併せてご報告いたします。

## 法句経より

愚かな者は生涯賢者に仕えても、真理を知ることが無い。匙（さじ）が汁の味を知ることができないように。

聡明な人は瞬時（またたき）のあいだ賢者に仕えても、ただちに真理を知る。舌が汁の味をただちに知るように。

## 教えて下さい

「ご門徒紹介」のコーナーでいろいろな方をご紹介したいと思っております。自薦他薦を問いませんので、特技を持つている方やすごい農作物を作っている方、その他是非この人紹介したいと言う方など、どしどし寺の方にご連絡下さい。

また、寺報に載せる原稿も常時募集しております。こんな料理美味しいよ、と言うようなものでも結構です。こちらも是非いろいろと教えて下さい。また、この寺報の編集をしてやるという方、いらっしやいませんか？お寺で作っていちやあおもしろくない、俺が、私が作ればもっと面白くなるぞ、と言う方には是非寺報の編集をお願いしたいと思っております。

皆さまの柔軟な発想で、是非読んで楽しい「寺報」を作って欲しいと思っております。どうぞご協力お願い致します。

※今回は、「しんらんさま」は休ませて戴きました。

## 住職雑感

四月四日に大好きな温泉に行っていた前住職が還淨いたし、ご門徒の方々のご協力を戴き、葬儀も無事に済みますことが出来ました。その折りには、本当にお世話になりました。

同じ四月に、熊本を中心とする大きな地震が起きました。九州は、浄土真宗の信者の多い地区ですので、当然寺院数も多かったのですが、この度の地震で本堂の倒壊も含め、その被害寺院数は四百を越えています。また、ご門徒の方々もお亡くなりになっております。

私たちも東日本大震災では大変な苦勞をしました。同じ苦勞を今九州の人達がしていることを考えると、私たちが出来る形で協力させて戴きたいものです。

この日本は、地震の巣の上にあるような土地ですから、何時どこで地震が起きてもおかしくありません。

そう考えると、やはり備蓄は大切だと思い、現時点で二十〜三十人が三日間食いつなげるパンの備蓄をしておりますが、何とかこれを五十人まで増やしたいと考えております。またこれは、世界の飢餓救済も兼ねた栃木県にあるパン・アキモトの「救世鳥プロジェクト」に参加した事業でもあります。自分たちの身を守る備蓄が、少しでも飢餓に苦しむ人達の助けになれば幸いです。